unicef
基礎講座

難民キャンプに運び込まれる医薬品や日用品の詰まったユニセフマーク入りの多くの箱。開発途上国の村では、ユニセフマークのついたワクチンボックスを持って予防接種に出かける保健員さん、“UNICEF”と描かれた井戸のポンプ、ユニセフマークのついたノートで学習する子どもたちなどに出会います。こうした支援物資はどのようにして届いているのでしょうか。今回はユニセフの物資調達の中心地、ユニパックを訪れます。

©UNICEF/Supply Div.03

第10回

届け世界中の子どもたちへ

ユニセフ物資調達集積センター「ユニパック」

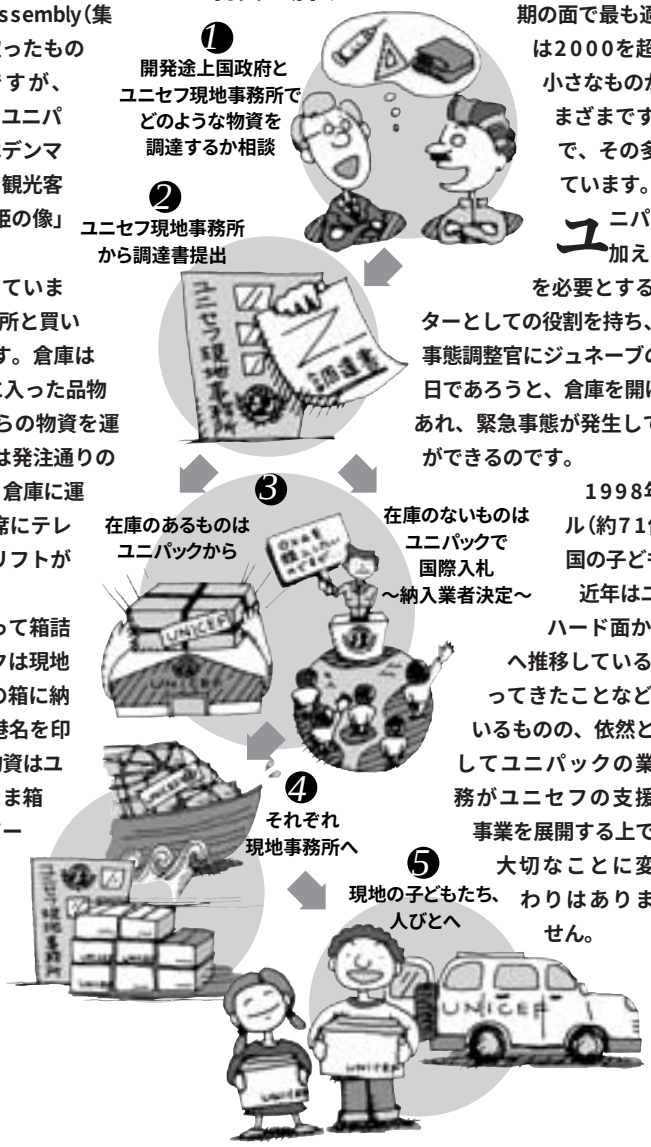
物資の調達はユニセフが支援事業を実施する時に必要不可欠なものです。この物資調達の中心になっているのがユニパック（UNIPAC）です。ユニパックはUNICEFのProcurement（調達）＆ Assembly（集積） Center（センター）の頭文字を取ったもので、正式にはユニセフの調達局ですが、1963年の開設以来、親しみをこめてユニパックと呼ばれています。ユニパックはデンマークの首都、コペンハーゲンにあり、観光客がよく訪れるアンデルセンの「人魚姫の像」から約1Km離れた港にあります。

ユニパックは2つの建物からなっています。物資の買い付けをする事務所と買い付けた物資を保管・集積する倉庫です。倉庫はサッカー場3つが入るほど広く、港に入った品物を積んだトレーラーやヨーロッパからの物資を運ぶトラックが集まってきます。品物は発注通りの規格に合っているか品質検査を受け、倉庫に運び込まれます。倉庫の中では、運転席にテレビモニターのついた特別なフォークリフトが荷物の積み下ろしをしています。

倉庫の隣ではベルトコンベアを使って箱詰め作業が行われています。ユニパックは現地事務所から発注されたものを指定数の箱に納め、鉄ひもを掛け、送り先の国名、港名を印字して送り出します。現地に着いた物資はユニセフの職員が港で受け取り、そのまま箱を開けられることなく最終のユーザー（例えば保健センター）まで運ばれます。こうして途中の破損や流出を防ぐのです。

©UNICEF/Supply Div.02

ユニパックから物資が届くまで



ユニパックが購入する品物はユニセフの支援事業に用いられるもので、国際入札を行った結果、価格、品質そして納期の面で最も適した納入者が選ばれています。扱う品目数は2000を超え、医薬品はもとよりノート、鉛筆などの小さなものからベッド、自動車などの大きなものまでさまざまです。これらは通常の支援事業に使われるもので、その多様さがユニセフの活動範囲の広さを物語っています。

ユニパックは通常の支援事業のための物資調達に加え、自然災害や武力紛争によって緊急に支援を必要とする子どもたちにすばやく物資支援を行うセンターとしての役割を持ち、高く評価されています。ユニパックの緊急事態調整官にジュネーブの国連緊急援助調政局から連絡が入ると、休日であろうと、倉庫を開け物資を目的地に送ります。地球上のどこであれ、緊急事態が発生して、48時間以内に必要な物資を届けることができるのです。

1998年度にはユニパックの倉庫から約5800万ドル（約71億円）に相当する物資が出荷され、開発途上国の子どもたちを支援する事業に使われました。

近年はユニセフの支援事業が機材設備の充実などのハード面から、人材養成や知識の普及などのソフト面へ推移していること、開発途上国内での物資調達度が高まってきたことなどから、ユニパックの仕事量は減ってきてはいるものの、依然としてユニパックの業務がユニセフの支援事業を展開する上で大切なことに変わりはありません。

©UNICEF/HQ97-0559/Runar Soerensen

©UNICEF/HQ98-0426/Lemoyne

ユニパックの活動のようすは、ビデオ「子どもたちへのライフライン」にわかりやすく描かれています。

●ユニセフライブラリー
TEL:03-5471-7091
各地のユニセフ視聴覚教材貸出機関をご利用ください。